

「歯周病の自覚症状と臨床診断との関連性について」

○千葉靖子¹, 土田静花¹, 佐々木有輔¹, 黒田葉月¹, 柴崎麻実¹, 加藤丈夫^{1,2},
加藤裕一¹, 山下英俊¹ (1:山形市保健所シンクタンクチーム, 2:山形病院)

【背景・目的】唾液潜血検査は歯周病のスクリーニング検査として有用であることが報告されている(大島ら, 2001)。私達は, 唾液潜血検査の結果と自記式問診票の関連について, 自記式問診票の該当数が多くなるほど唾液潜血検査の陽性率が有意に上昇し, 特に関連のある問診項目があることを報告した(土田ら, 2019)。加えて, 歯科医院での定期健診ありの人は定期健診なしの人に比べて唾液潜血検査の陽性率が有意に低く, 年2回の歯科定期健診は歯周病予防に有効であることを報告した(松田ら, 2020)。今回, 自覚症状から歯周病重症度が予測可能かを検証することを目的とし, 歯周病の自覚症状と歯周病の重症度の関連について分析した。

【対象・方法】対象者: 令和元年, 令和4年度に20歳以上の山形市民8,913名中唾液潜血検査を受診した1,889名(参加率21.2%)。参加者内訳: 男性815名, 女性1,074名, 平均年齢66.6歳(23歳-89歳)。検査方法: ペリオスクリーン®(サンスター社)を用いた唾液潜血検査, 自記式問診票の記入, 唾液潜血検査陽性者(以下, 陽性者とする)に対し, 歯科医院での精密検査を勧め, その結果を回収した。統計解析: 自記式問診票(10項目)と歯科医院での精密検査結果の関連について統計ソフトR/EGRを用いて分析し, 有意水準は $p < 0.05$ 。

【結果】対象者1,889名のうち陽性者は1,339名(陽性率70.9%)。陽性者のうち歯科医院を受診した者は574名(精密検査受診率42.9%)。①精密検査を受診した者のうち91.3%が歯周病と診断された(図1)。歯周病の重症度別にみると, P2(中度)が最も多く256名で次いでP1(軽度)が173名, P3(重症)が27名であった。また歯周病診断された者のうち自記式問診票該当数の平均は2.2個(標準誤差0.06)。②歯周病の重症度と自記式問診票の該当数について分析した結果, 無関係ではないことが推測された(Spearmanの順位相関係数0.136, P値=0.0037)(図2)。

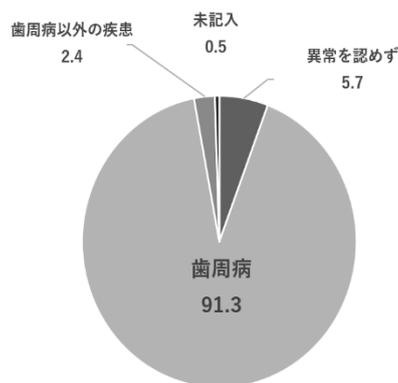


図1. 精密検査結果内訳 (%)

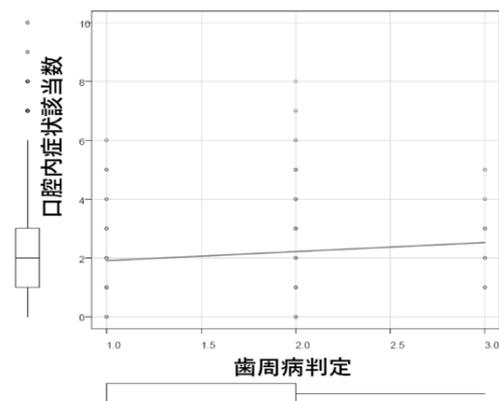


図2. 自記式問診票と歯周病の重症度

【結論】本調査・研究では, 自覚症状と歯周病に強固な関連はみられず, 自覚症状は必ずしも歯周病の重症度に反映されていなかった。自覚症状の有無に関わらず歯周病検査の受検を促すことで, 歯周病の早期発見・早期治療につながる可能性が示唆された。今回の結果は, 歯周病予防の為の周知啓発の一助となりうる。

▶R5年度

第50回山形県公衆衛生学会発表(歯周病に関すること)のまとめ

テーマ	歯周病の自覚症状と臨床診断との関連性について
内容	自覚症状から歯周病重症度が予測可能かを検証することを目的として、歯周病の自覚症状と歯周病の重症度の関連について分析した。 対象者は令和元年、令和4年度に20歳以上の唾液潜血検査を受診した市民1,889名(男性815名、女性1,074名)の陽性者に対し、歯科医院での精密検査を勧め、自記式問診票(10項目)と歯科医院での精密検査結果の関連について統計ソフトR/EGRを用いて分析した。唾液潜血検査方法はペリオスクリーン®(サンスター社)を用いた。
結果	自覚症状と歯周病に強固な関連はみられず、自覚症状は必ずしも歯周病の重症度に反映されていなかった。自覚症状の有無に関わらず歯周病検査の受検を促すことで、歯周病の早期発見・早期治療につながる可能性が示唆された。

《分析結果の詳細》

- ・対象者1,889名のうち陽性者は1,339名(陽性率70.9%)。歯科医院を受診した者は574名(精密検査受診率42.9%)。
- ・精密検査を受診した者のうち91.3%が歯周病と診断された。歯周病の重症度別にみると、P2(中度)が最も多く256名、次いでP1(軽度)が173名、P3(重症)が27名であった。また歯周病診断された者のうち自記式問診票該当数の平均は2.2個(標準誤差0.06)。
- ・歯周病の重症度と自記式問診票の該当数について分析した結果、無関係ではないことが推測された。